

2015年 数学 IIB 第4問

4 1辺の長さが1のひし形OABCにおいて、 $\angle AOC = 120^\circ$ とする。辺ABを2:1に内分する点をPとし、直線BC上に点Qを $\overrightarrow{OP} \perp \overrightarrow{OQ}$ となるようにとる。以下、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とおく。

(1) 三角形OPQの面積を求めよう。 $\overrightarrow{OP} = \frac{\text{ア}}{\text{イ}} \vec{a} + \frac{\text{ウ}}{\text{イ}} \vec{b}$ である。実数 t を用いて $\overrightarrow{OQ} = (1-t)\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OC}$ と表されるので、 $\overrightarrow{OQ} = \text{エ} t \vec{a} + \vec{b}$ である。

ここで、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{\text{オ}}{\text{カ}}$ 、 $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OQ} = \text{キ}$ であることから、 $t = \frac{\text{ク}}{\text{ケ}}$ である。

これらのことから、 $|\overrightarrow{OP}| = \frac{\sqrt{\text{コ}}}{\text{サ}}$ 、 $|\overrightarrow{OQ}| = \frac{\sqrt{\text{シス}}}{\text{セ}}$ である。

よって、三角形OPQの面積 S_1 は、 $S_1 = \frac{\text{ソ} \sqrt{\text{タ}}}{\text{チツ}}$ である。

(2) 辺BCを1:3に内分する点をRとし、直線ORと直線PQとの交点をTとする。 \overrightarrow{OT} を \vec{a} と \vec{b} を用いて表し、三角形OPQと三角形PRTの面積比を求めよう。

Tは直線OR上の点であり、直線PQ上の点でもあるので、実数 r 、 s を用いて

$$\overrightarrow{OT} = r\overrightarrow{OR} = (1-s)\overrightarrow{OP} + s\overrightarrow{OQ}$$

と表すと、 $r = \frac{\text{テ}}{\text{ト}}$ 、 $s = \frac{\text{ナ}}{\text{ニ}}$ となることがわかる。よって、

$$\overrightarrow{OT} = \frac{\text{ヌネ}}{\text{ノハ}} \vec{a} + \frac{\text{ヒ}}{\text{フ}} \vec{b}$$

である。

上で求めた r 、 s の値から、三角形OPQの面積 S_1 と、三角形PRTの面積 S_2 との比は、 $S_1 : S_2 = \text{ヘホ} : 2$ である。